



No. 19

1992.12

図書館だより

上田女子短期大学附属図書館

館長に就任して

山口 吉宗

今年度から、館長を務めることになりました。大学における教育や研究に必要とされる資料・情報を収集し組織して蓄積し、学生・教員に提供し、それぞれの学習や研究に寄与するという大学図書館の使命を、よりよく果たすよう努めたいと思います。

当館がこれまでに築き上げてきたものの一層の充実と、新たに進展を図るべきことへの対処を、社会の発展、学術の進歩及びそれらにより

短期大学教育ことにその図書館に求められるものを見据えつつ、努力を重ねたいと思います。

資料・情報の種類及び利用要求が共に多様化を増しつつある現状に対応しうよう、資料・施設の充実、また業務の機械化、学術情報ネットワーク利用等のそれぞれの拡充、その他利用者サービスの拡大向上などに取り組んでいきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

私と図書館

清水 正男

私と図書館との深いかかわり合ひは、今にして見れば生涯を通じてのものとなった。それは恩師諸橋徹次先生との出会いから始まった。信大を卒業して現場の教員生活を経て入学した大学ガイダンスで館長の諸橋博士は、「諸君一人一人に机も本棚もスタンドも各一つずつ準備してある。存分に利用・研究に打ち込んで下さい」と言いながら全教授、助教授、講師、そして助手まで入れたスタッフも各分室の資料と共に常に指導するので……との事であった。

爾来数十年、先生のお言葉に甘えて母校にご危介になり続けている。信越線は研究生扱いを長く受けた私には忘れえぬ交通機関となった。

私の専門の教育学、とくに「日本の教育の革新」研究は諸々の学問、専門分野と関連し融合をますます深めて、いわゆる学際的研究となつて進行している。そのためもあつてか、私は多くの学びの友、指導して下さる師、先輩、また

若い同志の諸君など実に広い分野の学びの友を持つことができ幸である。

デーブル、タイラー、ルイス、マイヤー、西本三十二、間宮不二雄、石山脩平、金子孫市、ドクタキンゾー、ウサオトシマツウイン等々。それらの中で図書館と言へば間宮不二雄は忘れえぬ人である。

周知の通り大正時代までの全く沈滞し切つていたわが国の館界の活性化を志し、LYLを率いて参画し、昭和前期ついにわが図書館界はその面目を一新するに至つた。そしてわが国の教育の中に図書館の重要な位置づけを確立させる基礎づくりを果たしたのであつた。

そして私と広く世界の図書館、図書館学、情報科学、教育等とを結ぶ素晴らしい契機をつくつて下さつた方でもある。

(清水先生は昨年度末で図書館長を退任され、本稿は長年にわたる図書館との関りを思い出として書いて頂きました。)



薔薇の名前

松田幸子

ここに『薔薇の名前』という1冊の本がある。原書はイタリア語で、Il nome della rosaと題されており、著者はウンベルト・エーコ（Umberto Eco）というボローニャ大学（世界最古の大学で創立年不詳、12世紀には存在していた）の記号論の正教授である。出版されたのは1980年で、日本語訳は河島英昭氏によってなされ、1990年1月、東京創元社から出版されている。この本では中世末期（14世紀）のヨーロッパにおける修道院の文書館（図書館）の様子が興味深く述べられている。それと同時に、本に書かれた言葉の力を強く信ずる人達の思いを知ることが出来るのでここに紹介したいと思う。カトリックの修道院は、その内部が一つの独立した生活の場で、神への祈りと共に労働・生産の場でもある。この物語に出て来る修道院の中には、40人もの人が同時に仕事が出来るように工夫された写字室（写本室）があった。グーテンベルク（Johannes Gutenberg, 1394 - 1468）による印刷術の発明は1450年頃のことであり、この物語の時代、本は全て木版か手書きで写すことによって作られていたのである。

物語によれば、この修道院にはヨーロッパ中の珍しい本が宝物としてたくさん保存されていた。それらは聖書や神学に関する本、ギリシヤ、ローマの古典などであった。さらにまた、世俗的な本もたくさん持っていた。そんなわけで、この修道院にはヨーロッパ各地から修道僧が訪れて滞在し、珍しい本を書き写しては持ち帰っていたのである。彼らは又写本をさせてもらう代償に、別の貴重な写本を持参して写させてくれるので、その修道院の蔵書は次第に多くなって行くのである。これらの蔵書は写字室の上の階の文書庫にきちんと整理して収められていた。本は購入した順序に、寄贈を受けた順序に正しく並べられ、文書館長はその全ての順序を暗記していた。そればかりでなく、本が置いてある場所やそこに達する道順、本の内容まで暗記していた。そして文書庫に入れるのは館長と補佐官だけであり、本の貸出し、閲覧も館長の許可が必要であった。また文書庫の奥には、閲覧が許可されない本もたくさんあった。

本の閲覧を希望する修道僧は、まづ書物の題名を文書館長に申し出て、閲覧の意図が正当で



目 次

館長に就任して	山口 吉宗	1
私と図書館	清水 正男	1
薔薇の名前	松田 幸子	2
子育ての中で出会う本	天田 邦子	4
大学生の無気力症候群	前田 基成	6
— スチューデント・アパシー		
断章2題	田子 檀	8

第15回 児童文化研究大会に		
参加して	代田 陽子	10
本との出会い	白田 明美	11
私と図書館	溝口 志保	12
本の楽しみ方	川崎 暢子	13
【図書館ガイド】		14

あり、敬虔なものであると判断された場合のみ許可される。そのような文書館の中の写字室は、いわば知の工房であり、そこではお互に話しをしてもいけないし、笑ってもいけないのである。

この『薔薇の名前』という物語には、1327年11月も末のある美しい朝から1週間の間に、北イタリアの山上の修道院において連続して起った殺人事件が書かれている。それは年老いて盲目になった旧文書館長が、誰にも知らせずに1冊の本を秘蔵していた事に始まる。その秘蔵の本の存在の噂が流れ、いづれ修道僧の間に知れわたり、何時かは人々の眼にふれることを恐れた老いた旧館長は、その本の1頁ごとに毒物を刷毛で塗っておいたのである。もしもその本が発見され、指先をなめながら頁をめくれば、読み進むにつれて毒が体内にまわり、遂には死に至るようにしておいたのである。そして実際に恐ろしい事件が起きた。1週間の間に次々と6人の修道僧が死んだのである。

この事件の全貌が明らかになり、その秘蔵の1冊の本が明るみに出た時、自分で毒を塗った老旧館長は、本の内容の秘密を守るために本を1頁ずつ破って丸め、口に入れて呑み下してしまっただけである。彼は「その本の内容を封印して自分がその本の墓になろう」と言い、死の間際に「もしこの本が広まって開かれた解釈の資料となってしまうと、あの哲学者の言葉の一つひとつが神のイメージを逆転させてしまうから」と言った。

『薔薇の名前』という物語はここで僧院が焼失して終わっている。老旧館長が自分の命をかけて内容を秘密にしておこうと考えた本は、アリストテレスの『詩学』であった。特にその第二部の喜劇について書かれた部分であった。

世界は唯一なる神が作り給うたとする一神教のキリスト教と、多神教のギリシャで自然学を著したアリストテレスの思想が、中世末期のヨーロッパ修道院の中で融合するわけがない。

私は本棚から河出書房・世界の大思想の中に入っているアリストテレス『詩学』（村治能就訳）を取り出して見た。そこには悲劇と叙事詩

を取り扱った第一部があるだけである。そしてその最後は〈しかし、イアンボスと喜劇については。。。。〉となって終りになっている。この続きでアリストテレスが喜劇を論じたかどうか不明である。何故ならば、アリストテレスの『詩学』第二部は残っておらず、これが書かれたかどうかについては学者の間でも意見が分かれている。書かれたかも知れないという喜劇論の中味は第一部第五章で、喜劇について次のように書かれていることから推察できるだけである。

「喜劇は、すでにわれわれが言ったように、下賤なものの模写である。もちろん、必ずしもあらゆる悪いものにわたっているのではなくて、むしろ醜悪なものの模写である。滑稽なものは一種のあやまちや醜いものであるけれども、それは苦痛を与えもしなければ害を与えないからである。たとえば滑稽な顔は一種の醜いもので、ゆがんだものだが、苦痛は与えない。」（前掲書・村治能就訳）

毒を塗った本を破り食べた老旧館長は、このようなアリストテレスの文書を修道僧達に見せたくなかったのである。修道僧達の生活は、禁欲的で常に霊的な事柄に集中すべきであり、汚れなき行動で満たされねばならなかったからである。そして、旧約聖書創世記は神による宇宙の創世について語っているのに、アリストテレスの自然学は、宇宙は「鈍重で粘液質」なものから構成されていると教えている。このような考え方は唯一の神を信じる老旧館長にとって許せないものであったらと思うられる。いづれにしても、彼はこの文書館において、アリストテレスの著作を誰の眼にも触れさせないように努力し、遂に多数の人を殺し、最後には自分の命も落してしまったのである。

ところで、アリストテレスの『詩学』第二部喜劇論は本当に書かれなかったのであろうか。若し書かれていたとしても、それ程有害なものであったら、殺人犯になったり、自分の生命をおとすまで封印すべきものであったら、唯、云える事は、旧文書館長があまりにも純粋で、書物の力を強く信じていたということである。

（教授）



子育ての中で出会う本



天田邦子

二か月ほど前のことだった。幼稚園の年長組に通っている娘が、いかにもうれしそうな顔をして帰宅した私に駆け寄ってきた。「おかあさん、この本が家にもあったんだね。わたしがきょう本箱から見つけたんだよ。読んで。」手にしているのは、ルース・スタイルス・ガネット作、ルース・クリスマン・ガネット絵の『エルマーのぼうけん』だった。アメリカの児童文学者と、さし絵画家の母の二人によるこの本は、続く『エルマーとりゅう』、『エルマーと16びきのりゅう』からなる三部作のはじめの話である。渡辺茂男の訳で福音館書店から初版が発行されたのは、1963年なのでほぼ30年前ということになる。上の男の子が読んだあと、本箱の隅に押しやられていた我家の本は、1985年の新版第31刷である。娘が私に読んでほしいとせがんだわけは、幼稚園の先生が、ちょうどその頃読みかせを毎日してくださっていた本だったかららしい。

勇敢な男の子エルマーが、ととったのら猫から動物島に捕えられているかわいそうなりゅうの子の話をきき、助けに出かける。ゆかいで実にうまい策略を用いて、動物たちの追撃をかわし無事にりゅうを救出するというお話である。はらはら、ドキドキする場面では、私の膝の上に避難し、逆におなかをすかした七ひきの寅にチューインガムを与え、うまいものが欲しくてこまっていた17ひきの鱈の尾に棒つきキャンデーを輪ゴムでゆわえてやるなど一件落着の場面では、ほっと余裕が出て口をはさみながら、ともかく満足気にお話をきいていたのは、いうまでもない。同じように、成長の一時期にこの本に魅せられていた子どもたち、おとなたちも多いことだろう。残念ながら、私の子ども時代にはまだこの冒険物語はなかった。

こんなふうにして、子どもといっしょに読む絵本や幼年童話、児童文学書が広がっていく。私にとって、きっかけは必要にせまられて読んだり見たりしていることが多いが、実は自分自身で楽しみ、メッセージを受けとめる時間にもなっている。アメリカの新大統領クリントンとほぼ同じ世代である私たちの幼少の頃、日本の家庭にはまだ、いまほど子どもの本がなかった。イソップ物語、グリム童話、アンデルセン童話、日本昔話、宮沢賢治、世界名作物語などに触れえた程度であった。

1956(昭和31)年4月、ペーパーバック版の月刊物語絵本として「こどものとも」が創刊されている。企画した福音館書店の松居直は、その発刊の動機をこう語っている。第一に「岩波の子どもの本」シリーズ(1953～)で欧米の絵本水準の高さと物語絵本本来の圧倒的なおもしろさに絵本開眼され、日本での創出を考えたこと、第二に、保育絵雑誌が保育内容に密着しすぎて、保育者の使いがってのよい教材になりすぎ、子どもの側からの発想に欠け、子どもの成長を促す絵本として、本質的な意義が見失われていることへの不満と批判、第三に当時の大多数の絵本や絵雑誌のさし絵にみられた、類似性と非芸術性が気になり、幼児期にこそ、絵は美しくすばらしいものだという美的体験をとおして、ものをみる豊かな眼と感性を養ってほしい願いをもったこと。こうした理念をもつ出版物が絵本、児童図書に確実に増え、創作する作家、画家もメッセージを次々に送っている。

「こどものとも」400号発刊を記念して出された創刊号から50号までのシリーズを、以前購入した。1956年から60年にかけて出た絵本の中から、子どもは子ども、私は私それぞれにお気に入りの本をみつけたものだ。その後の「こ

どものとも」を含め、さしあたり楽しかった作品、心にしみた作品を十あげるならば、『ぞうのたまごのたまごやき』（寺村輝夫作、山中春雄画）『べにろいやるのおにたいじ』（ジョーダン作、吉田甲子太郎訳・山中春雄画）『くろうまブランキー』（伊東三郎訳・堀内誠一画）『スーホの白い馬』（大塚勇三再話・赤羽末吉画）『ぐりとぐら』（中川李枝子作・大村百合子画）『だるまちゃんとしてんぐちゃん』（加古里子作・画）『ゆうちゃんのみきさーしゃ』（村上祐子作・片山健画）『おみせ』（五十嵐豊子画）『おじぞうさん』（田島征三作・画）『てんのくぎをうちにいったはりっこ』（神沢利子作・堀内誠一画）であろうか。列举しきれない。

いまや、ロビンフットの冒険も、秘密の花園も小鹿物語も、新作アニメと混じって放映されるテレビアニメ番組で観ることが多い小学生は、低学年のころ、長崎源之助の『ふとったきみとやせたぼく』、灰谷健次郎の『せんせいけらいになれ』や『ワルのポケット』舟崎克彦が構成した『フェアブル昆虫記』などを私と読んでいた。

最近、上田市中央公民館の家庭通信学級推進委員会という場で、小山仁美さんと知りあいになった。小山さんは、絵本・児童図書が大好き、自宅でもドリトル先生のシリーズなど二年がかりで読むという方だが、もう十年ほど地域の学童保育で週一度、読みきかせを続けていらっしゃるといふ。私の住む坂城町でも、時々地区の有線放送から絵本、童話の朗読が流れ、町の図書館では毎月一回土曜日にお話会が開かれるようになった。母親たちの絵本研究グループもうまれている。親やおとなたちが家庭の中で、子どもたちの本に出会い、いっしょに楽しむことから、一歩外へ足を踏み出した活動も、今必要とされており、これからもさかんになってくると思われる。

子どもたちの学校外の生活、文化運動をずっと追求している増山均氏は『子育て新時代の地域ネットワーク』の中で北海道札幌市のみつばち親子文庫をとりあげ、文庫活動が子どもの本と子どもの文化を中心にして、子ども、父親

母親、老人、青年など地域におとなと子どもの公的、共同的な人間関係を築き、日常生活を豊かにしていることに注目している。

全国に分布する文庫は数千カ所（1984年日本図書館協会調査では4557）、そして市区町村立図書館の86%にあたる1623館に児童室（コーナー）が設置されている（1992年図書館年鑑）。他方1991年度の児童書新刊発行点数は2600点余、コミック466点にものぼっている（月刊『子どもと読書』1992年3月号）。

私が子どもの本に触れ楽しむ年月は、まだ続きそうである。そして親やおとなの、子どもの本を媒介にした文化運動も。

（助教授）



本学の先生の近刊書

（1991.10～1992.10）

お母さんちよつと

竹内 要 著
青山社 1992 800円

幼児の子育てにかかわるさまざまな問題に対するアドバイス集。内容は昭和63年10月から1年間、信濃毎日新聞家庭面に掲載した記事をまとめたもの。

特に若いお母さんには子供の発達面での悩みはつきないが、1人よがりて勝手に悩む前に子供が発するサインに目を向けようち訴える。子供に接した豊かな著者の経験から語られる言葉は温かい。ぜひ御一読を。



大学生の無気力症候群

— スチューデント・アパシー —

前田基成

本学においてはほとんどみられないが、他の大学では勉学に対して意欲をなくし、留年を繰り返すという学生がしばしばみられる。このような学生は、最近になってみられるようになったのではなく、その出現は30～35年前にさかのぼる。

1950年代の終わりころから1960年代の前半にかけて、わが国の大学では大量の留年学生が出現した。これらの留年学生の中には、留年の理由が成績が悪くて単位の取得ができなかったり、経済上もしくは健康上の理由により学業を続けることが困難だったり、という従来の留年学生とは異なったタイプのもが多くみられ、学生相談にかかわるカウンセラーや精神科医の関心をひいた。

彼らが従来の留年学生と異なるのは、留年の理由が、特に原因もなく勉学への意欲をなくし、授業にもほとんど出席せず、無気力な毎日を送っているという点であるが、その無気力は精神分裂病やうつ病といった精神的疾患の症状とは異なる、いわば「特有の無気力」である。このような不適應学生は、まずアメリカに現れ、スチューデント・アパシーと呼ばれるようになった。次いで、わが国でもその存在が認められるようになり、1970年代終わりころから1980年代前半にかけては、このタイプの臨床的ケースが高校生から大学卒業後の社会人にまで広がっていることが指摘されるようになった。しかしながら、ヨーロッパ諸国では、その存在を報告する文献はほとんど見当たらない。

スチューデント・アパシーの多くは大学入学後に発症する。発症のほとんどが男子学生で女子学生にはほとんどみられない。入学試験の成績は良好であるが、入学後、ささいな出来事で勉学に対する意欲を失い、無気力になる。こ

でいう無気力とは、普通一般に「無気力」とか「意欲に乏しい」、「やる気がない」と表現されるものとは明らかに異なっている。それは無関心、無感動を伴うもので、それまではまじめに出席していた授業を理由もなくサボるようになり、やがてはまったく授業に出なくなってしまふ。しかも、無気力は徹底しており、容易に回復しない。学業に対しては、まったく意欲を喪失するのであるが、日常生活には特に変化がなく、家庭では普通に生活している。また、本業である学業以外の副業には熱心に取り組み、たとえば、パチンコ、マージャンなどの娯楽やクラブ活動に熱中したり、趣味やアルバイトに一生懸命打ち込んだりする。

一方、副業には熱心というケースばかりではなく、生活全般的に無気力というケースもあるが、この場合も、家庭での日常生活は普通に行われている、したがって、発症当初は家族に気づかれることはほとんどない。しかし、授業にはまったく出席せず、期末試験も受けに出てこないの、当然のことながら留年を繰り返すことになり、大学の在籍年限が切迫し、除籍が心配されるころになって、家族や指導教官、教務係職員などから勧められて学生相談室に来談する。周囲の人に勧められたり、家族に付き添われたりすれば来談するのであるが、自発的に来談することはほとんどなく、また、継続来談も少ない。

スチューデント・アパシーと同様、青年期に好発する精神分裂病、うつ病、神経症など精神的疾患とは次の点で異なる。まず、学業に対してのみという選択的あるいは部分的な無気力という点である。ここが家庭、職業、社会などすべての生活領域において無気力となる分裂病やうつ病と異なる。また、自我同一性の葛藤につ

いても、境界型分裂病患者に比べてそれほど悩むことはない。

こうしたスチューデント・アバシーの学生には、発症前の性格特徴として強迫傾向が認められる。発症まではおとなしく、まじめで、人に世話をかけたりすることのない問題のない子とされており、学業成績は優秀で完全主義的なところもみられる。このほかにも、自己中心的である、精力的でない、あるいは、幼少時より人とぶつかりあった経験が少ない、などの共通した特徴が認められる。さらに、優劣の感覚に敏感で敗者としての屈辱に耐えることができず、したがって、自分の劣敗が予想される場面にはあらかじめ関与しないようになる。学業場面に出不くなるのは、優劣の判定から逃れるために、優劣の判定がされることのない世界に逃避することを意味する。そして、他者から評価されたり、順位づけされたりすることのない副業、すなわち、趣味やアルバイトには没頭することができるわけである。

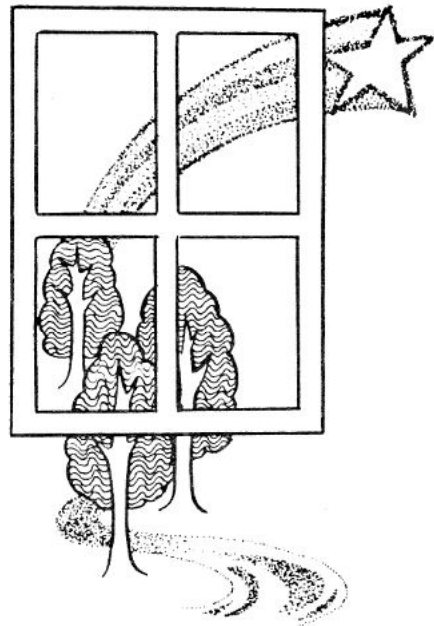
さらに、スチューデント・アバシーは基本的に男性性の欠如、歪みともとらえられる。スチューデント・アバシーの学生は、たとえば、親や教官が試験を受けさせようとするなど、自分自身にとって困難な場面に遭遇すると、試験恐怖などのパニック状態を引き起こし、そうした中で、郷里の母親に長々と電話したり、女性のアパートに泊まり込んだりするなどの女性依存、特に母親依存を強めるとされている。そしてその背後には、父親が権威的・過干渉である場合の父親拒否・父親恐怖、あるいは父親が仕事中心で母親任せの養育態度であったり、弱々しく女性的である場合の父親軽視・父親嫌悪など、さまざまな形で父性が拒否されやすい親子関係があるとされている。

スチューデント・アバシーの学生に対する具体的な対策については別の紙面に譲るとして、対策を考慮する場合、社会的な要因も無視することはできない。エリクソンは自我同一性の達成を図るさまざまな試みを行う青年期を心理的モラトリアムと呼んでいるが、自我同一性の葛

藤を生じているスチューデント・アバシーの学生には、彼らの成熟のためモラトリアムを設定してやるのが望ましいと考えられる。しかし、在籍年限や転学に厳しい制約のあるわが国の大学制度のもとでは、モラトリアムが許容されにくい。したがって、わが国でも留年、休学、転学、退学の年限にゆとりをもたせた制度や、大学はもとより高校にも進路相談のための専門的なカウンセラーを配置し、学生・生徒が十分にそれを活用できるシステムの確立が望まれる。

最後に、こうしたスチューデント・アバシーと関連する「自分とはいったい何か」、「自分の存在理由は何なのか」といった自我同一性の確立には、日ごろから多くの良書に接することが解決の指針を与えてくれる場合が多いことをつけ加えておきたい。

(講師)





断章 2 題

田 子 檀

※「神谷美恵子著作集」など

本誌 No 18 に竹内要先生がお書きになった中の「そして一冊の本」で神谷美恵子夫人の「こころの旅」のご紹介があった。たいへんうれしく拝見した記憶がある。それを承けたような恰好になるが、私はここでその神谷夫人の他の著作や翻訳、何でも読んでほしいということをおちよと書いておこうと思う。

夫人の著作集は全 10 巻、別巻 1 巻「神谷美恵子・人としごと」であるが、その後もそれに漏れたものが何冊か刊行されている。私の持っているものでは、'89 年発行の「うつわの歌」（著作集と同じく みすず書房刊）が最後であるが、その後も何か出ているかもしれない。そのどれにも——といっても私の眼に触れた範囲で——感銘を受けるのである。別巻の中の 6 頁弱の年譜、あるいは夫人を敬慕する人々の書かれた解説や月報の文章のどの一つを読んでも、心を洗われる思いがするのである。

夫人は津田英学塾在学中 19 歳の年叔父金沢常雄——いわゆる無教会の内村鑑三門下——に伴われて癩療養所多磨全生園を訪れ、たいへんな衝撃を受ける。ここにこんなに気の毒な人たちがいる、何とか手助けをしてあげなければというその時の気持が彼女に医師の道を選ばせることになるが、やっと 25 歳ごろになって父の許しを得る。30 歳女子医専卒、東大精神科医局に入り、内村鑑三の長男祐之教授のもとで精神科医の道を歩み始めるのである。

始めに翻訳という語を使ったが、私が夫人の名前を知ったのはマルクス・アウレーリウスの「自省録」の訳者としてであった。私の持っているのは岩波文庫本で、それに眼を通したのは

'85 年であってそう昔のことではない。この本は始めに「故三谷隆正先生に捧ぐ」という献辞があって始まる。この献辞も私にとっては人と人とのめぐりあいということを痛切に感じさせるまことに印象深いものであった。私が三谷隆正の文章でマルクス・アウレーリウスの名を知ったのは——'40 年代後半であった。ここで三谷隆正や「自省録」についても書きたいことがあるが紙数を節約する。

夫人の 65 歳の生涯をある人は「夭折を惜しむというに近い気持である」と書いている。夫人の生涯は、人の子として、社会の人として、妻として、母として十全の生涯といえるであろう。それだけに人々の幸せのために、もっともっとそこにいてほしかったと惜しまれたのである。

※澤瀉「万葉集新釈」のことなど

万葉学者の澤瀉久孝博士のお名前を知ったのは「万葉集講話」S.17 年、私の 18 歳の時である。この本は中学 2、3 年くらいの生徒を対象に書かれたもので父が買って来た。それまでも万葉集には関心があったので早速読んだ。それで一コロであった。以後博士の著作は努めて買い揃えようとした。その年 1 年私は当時の国民学校の助教——代用教員——をした。先輩の先生がこの新釈上下 2 巻を持って居られた。この本は著者も入門手引の書であるに過ぎないから、無用の書となる日の一日も早からん事を希望する云々と書いているが、それにしても絹張りの表紙のまことにきれいな本であった。翌年私の買ったのは何版であったかもうそれほどの造本ではなかった。それを S.20 年 4 月 9・10 日の米軍の東京空襲で焼失した。その下巻巻首

にわが千曲川の写真があった。巻14の東歌
 信濃なる千曲の川のさざれ石も君し踏みてば
 玉と拾はむ(3400)

の参考挿画である。いい写真であった。

昨年本学にお世話になることになってこの新
 積がまたほしくなった。なくして50年に近い。
 そこで昔の教え子で大学で澤瀉博士の指導を受
 けた女性に東京で古本を捜してもらった。戦後
 改訂の重版でS.27年版。本の用紙、資材もま
 だ粗末なものであった。久しぶりに手にする新
 積、ところが千曲川の写真は入れ替えられて無
 くなっていた。本文は上は全面組替え、下は元
 の紙型をそのまま使ったから上記の歌の注には
 そのまま挿画参照と残っていた。まことに残念
 である。

千曲川についてはその後の万葉地理、文学散
 歩式の本に何と佐久あたりの写真や記事が載っ
 ているものがある。これは藤村の「千曲川旅情
 の歌」か何かに影響されたとしか思われない。
 千曲川は千曲川でもこれでは「さざれ石」では
 ない、大石ごろごろの千曲川である。そうかと
 いうて長野あたりまで下れば砂地であって長
 野の産地になってしまう。「さざれ石」はやはり
 小県・埴科地区である。このことについては故
 高野豊文先生——元長野大教授、筆者の旧制中
 学時代の恩師、高野地理学と呼ばれる——から
 教えて頂いたことでもある。

澤瀉博士には直接教えて頂いたことも、お目
 にかかったこともない筆者であるが、前記教え
 子の恩師である前に筆者の直接お世話になった
 石井庄司、佐伯梅友先生などの先生である。同
 じく東歌

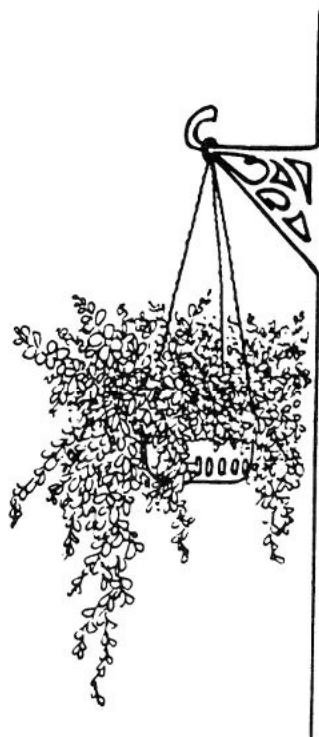
信濃なる須我の荒野にほととぎす鳴く声聞け
 ば時過ぎにけり(3352)

の須我の荒野は今の真田町菅平であろうとい
 う筆者の「万葉集と菅平——須我の荒野考」を澤
 瀉博士にご紹介下さったのは石井先生である。

それは博士の大著「万葉集注釈」巻14の校正が
 既に始まっていた段階の東京駅ホームで、博士
 をお見送りする石井先生、傍には出版社中央公

論社の担当社員がいるという場でのことであ
 った。その結果その巻に従来の説と並べて菅平説
 が取り入れられた。これ(S.40年発行)以後
 テキストの注や辞典——小学館日本国語大辞典
 角川古語大辞典などにも菅平が出てくるよう
 になった。さらに今年になって石井先生からこれ
 についてもっと決定的といっている資料を頂戴
 した。それについては本年度の本学紀要に紹介
 記事を書いたので併せて見て頂ければ幸甚であ
 る。

(講師)





第 15 回 児童文化研究大会に参加して

幼児教育科 1 年 代 田 陽 子

10月17日、上野動物園長増井光子先生の「動物たちが大人になるために」という講演をお聞きしました。正直言って、最初のうち、動物の話となぜ保育が結びつくのだろう、そんな気持ちでした。しかし、スライドを用いた、わかりやすい説明で印象に残りました。

チンパンジーにテレビを見せる話のところで、30歳をすぎたチンパンジーにテレビの映像を見せても、あまり興味を示さないという点は、人間と一緒にだなぁと思いました。年配の方でも、新しいことに挑戦し積極的な方もいるのでいちがいいには言えないけど、やはり同じ動物なんだと思いました。猫の獲物とりの話には、驚きました。ねずみをとったりするのは本能でどの猫もあたりまえのようにするものだと思っていたからです。小さい頃の学習がとても大切なのは猫も同じかも知れません。

他にも、ゴリラの子育ての話、ナッツ割りなどの話がありました。先生は人間の保育とは関係なく、あくまでも動物の話だとおっしゃったけれど、私はその動物の話のなかから、人間の保育のあり方をあらためて考えさせられました。大変いいお話をお聞きできてよかったと思いました。

午後3時からの分科会は、第三の「夜間保育所における実践」に参加し、保科かおる先生のお話を聞かせて頂きました。私は、普通の保育園で育ち、今まで夜間保育ということを少し聞いたことはあるものの、ほとんどどういう実態

なのか知らなかったなので、興味をもち参加しました。

他の保育園より大変だなぁっていうのが、聞いてみた実感です。そして、どういうことが行われているのか、どんな時間配分になっているのか、メモを取りながら、思わず話やビデオに引きこまれてしまいました。10時半頃からの登園の話や、夜中の12時頃にも寝ている子を起こして、たとえ2時間、3時間でも親と寝られるほうがいいので帰宅させること、また子供を保育園に預けておいて親が遊びに行ってしまう保育園にすべて教育をまかせればいいという傾向の親中にはいることなど、保育者がわから見た保育の実態などが浮き彫りにされていま

した。「保護者と保育者が共に歩み考える保育」という先生の言葉が印象に残りました。



上野動物園長 増井光子先生





本との出会い

幼児教育科2年 白田明美

私は、本との出会いは捕え方によって多種多様な息吹きを与えてくれるものだと考えます。私はいつでも足を運べる図書館や書店、あるいは友人同志の会話で好む本に出会えると考えます。そして、そのようにして出会った本の中から心に残る本があると思います。そのような本から得たものはきっとどこかで生かされていくことと思います。その一例が、私が保育園児の頃に出会った大好きな絵本を再びこの短大の図書館で見つけたことです。私はその場で読み始めました。確かにこの絵本です。『おおきなおおきなおいも』という題名の通り、大きなおいもの絵がのっています。「私も大きなおいものを掘って、遊んでやきいもにして食べたいな。」と幼な心に夢を抱きました。この絵本はある幼稚園で実際に教育実践として行われたものでした。幼な私には、夢のような話に感じましたが今、読み返してみると、今後保育の場に立つてからのとっても良い参考になる一冊だと再発見したのです。私は附属図書館で一冊の本と再会し、かつてのその本から夢を抱いていたことが、今役立っていることを体験しました。

図書館の利用法はまだあります。図書館は授業レポートの課題等の調査、空き時間を有意義に過ごす工夫がされていたり、実習資料となる紙芝居・児童書・絵本などあらゆる整備がなされ、利用しやすくなっています。私も気軽に立ち寄り、閲覧することで新たな本と親しくなることが出来ました。

本は文字により訴えますが、言葉は発しません。同じ本を読んだとしても、人により感じ方が違い、読んだ人それぞれの思考に任かされ、感想が異なる事が面白いと思います。子どもに本を読み聞かせる時は、本の文字が言葉となり感情が加わり迫力のあるものになります。前者

のように、能動的に探し求める本と、後者のように受動的に知り得る本とがあるわけです。どちらにしても、本から得る影響は、一時的なものばかりではありません。情緒や感情など心豊かにしてくれ、人間的にも温かく多くの知識を与えてくれるものです。そして本から参考を得て、考え方の導きとなる事もあります。

これらの事からも、いろいろな役立て方が本にはあるのです。私はこれから本の読み方や選び方などを研究し、今度は、私が子どもたちにあの絵本を読んであげてみたいです。そして子どもたちなりに、どんな夢を抱くのかを楽しみにしたいと思います。

▼▼▼ 本学の先生の近刊書 ▼▼▼

(1991.10~1992.10)

生きること・考えること

松田幸子・渋谷久・福田睦子共著
中教出版株式会社 2,000円

若い人向けにやさしい言葉で、わかりやすく書かれた哲学の本である。若い時には誰でも人生についての不安や疑問を持つ。本書はそれらに対する具体的な答えではないが、どのように考えればよいか、考え方の材料を提供してくれる。第一部基礎篇、第二部応用篇から成るが、どこからでも読み始めることが出来る。



私と図書館



国文科1年 溝口志保

私の母は、私がまだ文字が読めない幼い頃から毎晩私に本を読んで聞かせてくれました。そのため今の本好きな私がいるのだと思います。幼い時、母に連れて行ってもらった図書館は本が沢山あって、私のお気に入りの場所となりました。

高校時代、いろいろな本を勧めてくださった先生が、「お前ら図書館に行ってみろ、自分と同じ年の奴らが黙々と勉強しているのを見て、やる気をだせ、そして図書館を大いに活用しろ。」と言われました。図書館へ行くと全員が競争相手のように見え、同じ目標を目指す者同士よい刺激になりました。

私がこの短大を選んだ理由の中には、今までには無かったCDの貸出やビデオを観たり、本の貸出・返却が全部コンピュータで処理されていることなど、付属図書館が充実していた事があげられます。短大の図書館の本を見て驚いた事があります。それは本にジャケットがついて

いる事です。今までは全部ジャケットがはさずされてきました。昔その理由を聞いた事がありました。ジャケットだけでも何百冊になると場所をとってしまうからという答えでしたが、本はジャケットを取ってしまうと単に一色だけ塗られ、背文字が書いてあるだけとなり、どの本も同じように見えてしまい、この本がどのようなのか感じがつかめませんでした。ジャケットが着いている事により本のイメージが少しでも分かってより一層本に対して興味を示すようになったと思います。

良い書物に出会うのはなかなかたいへんなものだと思います。話題だけで読んでみただけの自分にとっては心に残るものではなかったりする時もありました。また隅の方にあった本が自分の中では忘れられない本になる時もあります。

自分の心や知識がもっと豊かになるように、今まで以上に図書館を活用していきたいと思っています。

貸出図書ベスト20 (1992.4～1992.11)

- | | | |
|----|----------------------|--------------|
| 1 | 悲しみがとまらない | 林真理子 著 |
| 2 | もものかんづめ | さくらももこ 著 |
| 3 | N, P | 吉本ばなな 著 |
| 4 | 血族 下 | シドニー・シェルダン 著 |
| 5 | シュガータイム | 小川洋子 著 |
| 6 | 血族 上 | シドニー・シェルダン 著 |
| 7 | ノルウェイの森 上 | 村上春樹 著 |
| 8 | 明日があるなら (上) | シドニー・シェルダン 著 |
| 9 | 無印結婚物語 | 群ようこ 著 |
| 10 | 窈窕源氏物語 1 桐壺 帚木 空蝉 夕顔 | 橋本 治 著 |
| 11 | 真夜中は別の顔 上 | シドニー・シェルダン 著 |
| 12 | 真夜中は別の顔 下 | シドニー・シェルダン 著 |
| 13 | 新瀬日本古典集成 山家集 | 後藤重郎 校注 |
| 14 | 日本古典文学全集 8 竹取物語(他) | 片桐洋一 他校注 |
| 15 | TUGUMI つぐみ | 吉本ばなな 著 |
| 16 | 明日があるなら (下) | シドニー・シェルダン 著 |
| 17 | 手あそび指あそび | 吉本澄子 著 |
| 18 | さよならをいう時間もない | ジュディ、ブルーム 著 |
| 19 | 五番目のサリー | ダニエル・キイス 著 |
| 20 | 与謝蕪村 俳句シリーズ・人と作品 | 大磯義雄 著 |



本の楽しみ方

国文科2年 川崎 暢子

私は本が好きである。

本を読むのはもちろん好きだが、本を読む以外にも私には本の楽しみ方がいくつかある。

まず、本を探すときである。本を探すときはたいいて興味深そうな題名の本を取り上げ、あらすじを読み気に入ったらその本を読むことにしている。私は一冊の本を見つけるまでのこの過程が好きだ。本屋や図書館で本の題名を眺め、探しているだけで時間が経つのも忘れてしまう。気付いたらゆうに1時間は経っていたというのはよくあることである。たかが本を選ぶぐらいで、と思うかもしれないが、題名を見るだけでも時間を有する価値が本にはあると思う。現在、毎月出版される本はそれこそ数え切れないほど沢山ある。出版された本を全部読めるはずはないのだから、読む本も限定されてくる。その限定された本の中で、どの本を読むか、沢山ある中から数少ない自分にあった本を見付けるために、時間をかけてみるのもいいものではないだろうか。

他には、あとがきや解説、本の後ろに載っている本の紹介などを見るのがおもしろい。あとがきでは作品中には見られなかった作者の本音が見えるし、解説では作者の経歴や解説者独自の作品の批評や解釈が書かれているからだ。それらを本文を読む前に読んで、読み終わった後に読んで、それぞれ楽しめる。本に載っている新刊や刊行してある本の紹介を見るのは、本を探すのとはまた違った意味でおもしろい。本の後ろで題名とあらすじが少しかだけ紹介されているだけで、実物では見たことがないものばかりである。それらがどのような本かを想像してみて、実物を目の前にしてみた時に、想像と実物との間にどれだけ違いがあったか、それを比べてみると、また、一種のおもしろさがある。

以上が私の本を読む以外の本の楽しみ方である。本の内容とは関係ないものだが、ただ単に何も考えずに本を読むよりは、数倍も楽しめる読み方だと思う。

最近、本を読む人が少なくなってきているというが、気分を一新するために、一度、この方法で読んでみたらどうか。きっと今まで以上に本を好きになれるだろう。おすすめする。



本学の先生の近刊書

世相今昔画集・第4巻

山本秀麿 著

北信ローカル社 1992 10,000円

昭和61年に第1巻の出版以来、第4巻目の刊行となる。古き良き日の思い出に愛を込めて描いた昔懐かしいイラストの集大成である。

歳時記と年中行事では「子供の四季」「遊びの文化」「伝承文化」を収録。地誌・旅行記に「旧ダニエル・ノルマン邸」「長野商業高等学校創立90周年記念式典」には本学理事長、北野次登先生のことも紹介されている。

北信濃の風俗史としても楽しめる一冊。上製本、B4判、128頁のうち100頁がカラー印刷、800部。

【 図書館ガイド 】

図書・資料の検索について（高速部分一致検索）

本学図書館のコンピューター化も早 4 年目を迎え、今年からは視聴覚資料の入力も完了し、図書館の全図書資料の貸出返却業務が順調に稼働しています。そこで、先頃、バージョンアップされた高速部分一致検索について紹介します。

図書資料の検索には前方一致検索と部分一致検索があります。前者は書名、タイトルの頭文字から検索します。後者は、書名、タイトル等の中程にあっても末尾にあっても探し出してくれますが、部分一致の方は時間もかかります。

さて上記の 2 通りの機能に今度は高速部分一致検索が追加されました。これは書名・タイトル・著者名・作曲者・演奏者及び注記と内容細目等のどの部分からでも一字刻みで探し出すことが可能です。例えば、今、仮に夏目漱石の名前（漱石）しか判明しないとします。「漱石」で検索をかけます。該当データ 73 件を 9 秒で検索します。

高速部分一致検索・一覧表

〔指定〕 ☆ 図書 ☆ 著者名「漱石」

書名	叢書名	著書名 ページ	定価	サイズ	分類記号 1	出版者
漱石全集 一	吾輩は猫である	夏目漱石 著 613 p	円	23 cm	918.68	岩波書店
漱石全集 二	短編小説	夏目漱石 著 950 p	円	23 cm	918.68	岩波書店
漱石全集 三	虞美人草	夏目漱石 著 732 p	円	23 cm	918.68	岩波書店
漱石全集 四	三四郎	夏目漱石 著 934 p	円	23 cm	918.68	岩波書店
文学評論 (一)		夏目漱石 著 234 p	円	15 cm	904	校注 講談社
文学評論 (二)		夏目漱石 著 220 p	円	15 cm	904	校注 講談社
文学評論 (三)		夏目漱石 著 212 p	円	15 cm	904	校注 講談社

一覧表を印刷すると上記の様に出てきて『漱石全集』等が表示されます。又、『吾輩は猫である』の書名がフルに判明していないけれど、「猫」という文字の入った書名であることがはっきりしているものと仮定します。「猫」という一文字のキーを入れます。すると「猫」という文字の入っている書名が全部表示されます。ちなみにフル書名と一字キーで入れた場合の時間差は「吾輩は～」の時 6 秒。「猫」だけの時 4 秒（9 件）で、一字のキーからの検索の方が早いことがわかります。（高速検索です。）

高速部分一致検索・一覧表

〔指定〕 ☆ 図書 ☆ 書名「猫」

No	書名	叢書名	著書名 ページ	定価	サイズ	分類記号 1	出版者
1	漱石全集 一	吾輩は猫である	夏目漱石 著 613 p	円	23 cm	918.68	岩波書店
2	世界文学全集 13	黒猫 モルブ街の殺人 他	E. A. ポー 著 416 p	円	23 cm	908	他著 松村達雄 河出書房新社
3	猫は生きている		早乙女勝元 著 86 p	円	26 cm	910.E	理論社
4	漱石全集 1	吾輩は猫である 上	夏目漱石 著 249 p	円	18 cm	918.68	岩波書店
5	漱石全集 2	吾輩は猫である 下	夏目漱石 著 273 p	円	18 cm	918.68	岩波書店
6	僕が猫語を話せるわけ		庄司 薫 著 258 p	円	20 cm	914.6	中央公論社
7	日本の名随筆 3	猫		円	256 p	914.08	作品社

このようにキーを「信州」とか「上田」等のように熟語 2 文字でも検索がきくようになり非常に便利になりました。又、全資料のデータの中から探し出しますし、注記や内容細目まで探し出しますから、オーディオ・テープの出演した映画は？というような検索の仕方でも可能です。卒業論文で先輩が「宮沢賢治」に関する論文を書いているはずだけれどという場合等も卒業論文のみからの検索もできますし、全資料検索をかけると図書、カセットテープ、卒業論文すべての中から「宮沢賢治」を探し出します。

普段、バーコード読み取りによる貸出方式で便利さを感じている人も多いと思いますが検索をしてみることで一層便利さがわかると思います。どしどしカウンターへ申込んで下さい。

尚、将来的には学生用の検索用利用者端末を増設して、皆さんが自分の手で検索できるようにしたいと計画しています。（長張）



火垂るの墓 (LD)

野坂昭如氏の代表作である「火垂るの墓」(昭和42年直木賞受賞)を原作として作りあげた劇場用長編アニメーション。



越路吹雪 愛そして (CD)

NHKビッグショーより今は亡き越路吹雪のヒット曲をライブ形式で収録。



レイマン (LD)

88年度 アカデミー作品賞、監督賞、主演男優賞、オリジナル脚本賞受賞作品。

主演 ダスティン・ Hoffman
トム・クルーズ



アルプスの少女ハイジ (LD)

永遠の名作TYで放映された番組を107分に編集して発売。

図書館ニュース

皆さんもうお気づきですか？ 玄関ホールのロッカーが新しくなりました。図書館を利用する際は必ずロッカーに荷物を入れてから入館するようにしましょう。また、使用後は鍵を元どおりに戻しておきましょう。

編集後記

本学図書館のコンピュータ化も、平成元年開始以来、おかげさまで着年次計画を達成し、順調に前進をつづけております。

このようなとき、今年度の「図書館だより」を、先生がたの玉稿、学生諸姉の寄稿を得て、

おくりいたします。これらの方がた、また、平素図書館にお心をお寄せくださり、あるいはお力添えくださっております全学園の皆様にお礼申し上げ、さらに今後ともよろしくとお願い申し上げます。

(山口)